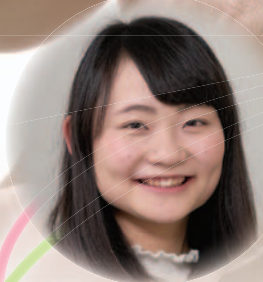


特集1

多文化共生とは

文化の違いを認め合い、尊重し合う関係を築こう

交通手段の発達やインターネットの普及により、近年、世界中で急激な国際化が進んでいます。岡谷市にも、現在約770人の外国人が居住しています。言葉や文化の違う人たちと、同じ地域のなかで、互いを尊重し合い、仲良く暮らしていくには、どうすればいいのでしょうか？ 今月は、市内で多文化共生に関わる人たちにお話をうかがい、そのヒントを探ります。



身近にこんなこと
ありませんか？

ほんとうは
こんなのかも

「多文化共生」って なに？

国籍や民族の異なる人たちが、文化の違いを互いに認め合い、対等な関係を築こうとしながら、同じ地域社会でともに生きていくことです。

★外国人のお母さんは、保育園で会話の輪に入ってこない



★仲良くなりたいけれど、日本語に自信がなかったり、輪に入りにくいのかも

★外国人は深夜まで大音量でパーティーをしたり、道ばたで集まって話し込んだりしている



★外国人にとって、それらは大切な生活文化なのかもしれない

日本の常識＝世界の常識とは限らない

外国人のために自分ができること...



ガールスカウトアジア太平洋
地域友の会・日本会長
日本語教室「サンデイ」主宰

上條美智子さん

文化やルールを二方向的に押しつけるのではなく、その違いを確認して理解し、むしろ、その違いを楽しみむくらいいいのではないのでしょうか。

わたしは日本とは違う文化に触れることに、大きな魅力を感じていて、外国人から母国のことや、文化、習慣のはなしを聞くのが大好きなんです。ですから、実は教えるより、教わることの方が多くんですね。中国人に日本語や生け花を教える活動をして、もう20年以上になります。これまでたくさんの方々が話してくれたさまざまなおはなしは、わたしのなかの宝物になっています。



外国人のための料理教室

これから日本に来る人が 同じ苦勞をしないように

わたしは、中国から日本に来て13年になります。母国でも日本語を勉強していましたが、そのときは簡単なあいさつ程度しか話せませんでした。岡谷に来てから、仕事のない日には図書館に通い、一生懸命に勉強して、日本語が話せるようになり、日本語能力試験2級を取るようになりました。また、長野県が主催する、バイリンガル日本語指導者育成講座を受講し、修了することもできました。日本語教室「サンデイ」を主宰する上條さんとはそのときに知り合い、現在、サンデイで講師をしています。中国人だけのコミュニティでは、サンデイのような日本語教室を開くことはできませんので、上條さ



日本語教室「サンデイ」講師
濱 歩乃華さん

方も違います。同じ漢字圏の国ですが、日本語は中国人にとっても難しい。それでも、言葉さえわかれば行動の幅が広がることを自分の体験で知っていますので、あとから日本に来る人がわたしと同じような苦勞をしないように、お手伝いしたいです。昨年の12月に、カウンセリング、セラピー、エステをするお店を山下町にオープンしましたので、日本人や中国人だけでなく、いろいろな国の人と、もっと交流していきたいです。



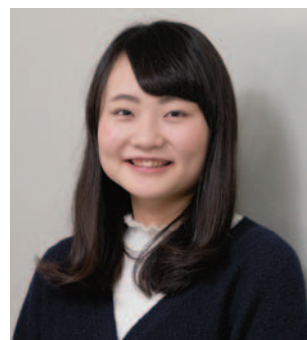
外国人のための日本語教室

んにはとても感謝しています。

日本は中国と同じように漢字を使います。が、読み方も使います。



違いを知ることので広がった世界



姉妹都市
ホームステイ体験者
平谷 楓花さん

コミュニケーションしよう とする気持ちがあれば わかり合える

3年前に、アメリカの姉妹都市、ミシガン州マウント・プレザント市との高校生相互派遣に応募し、ホームステイを経験してきました。以前から外国に興味があり、憧れを抱いていましたが、実際にアメリカに行ってみると、車が右側通行だったり、スーパーマーケットの規模がすごく大きいのに、まずビックリ。そして、日本との違いを感じたのはコミュニケーションのとり方でした。例えば、お世話になったホストファミリーの家族間では、子どもでも親に対して自分の意志をハッキリ伝えていました。それでも家族の仲はすごくいい！わたしは人見知りの性格ですし、英

語も得意ではないので、最初は自分の意志をうまく伝えられませんでした。身振り手振りでなんとか伝えようと努力したら、ホストファミリーが「伝えようと努力してくれる、その気持ちがうれしい」と言ってくれました。外国人との間には言葉の壁はありますが、お互いがコミュニケーションをとろうとする気持ちが、いちばん大切だと感じました。いま、看護師をめざして勉強していますが、このホームステイの経験を生かせるよう、国を問わずに活躍する「国境なき医師団」への参加を夢見ています。

ホストファミリーと



インディアンのお祭り



お互いを尊重して歩み寄る



国際交流センター
ポルトガル語相談員
学校支援員

川西 ケンジさん

多文化共生は 外国人よりも日本人が 取り組むべき課題

わたしは国際交流センターで、おもにポルトガル語圏の人の相談や、外国人の子どもが学校生活を円滑に送れるように、学校に向いて家庭と学校間の調整を行う、学校支援員をしています。ポルトガル語への通訳も行いますが、単なる通訳ではありません。例えば、重要な行事のお知らせによくある「ご都合がよろしければ、ご参加をお願いします」を、そのままポルトガル語に訳したら、ブラジル人はだれも参加しないでしょう。そんなときは、「もし参加しなかつたら、こんな問題やリスクがありますよ」という内容までつけ加えます。これは言葉というより、

文化の違いなのです。ですので、わたしは言葉だけでなく、気持ちと文化も通訳するのです。多文化共生は、外国人に向けたものというより、日本人が取り組むべき課題です。日本としての秩序を保つ、最低限のルールやマナーを外国人に守ってもらわなければ、結局困るのは日本人なのですから。

昨年、多言語支援サポートをはじめとする、多文化共生推進の会社を立ち上げました。国際交流センターでの仕事は行政の一環ですが、行政の枠、市町村の枠を超えた外国人支援を、今後展開していきます。



オフィスで相談を受ける



理解・交流・支援：国際交流センターの役割



国際交流センター
国際交流員

メグ ピーヴィーさん

日本語でいいから まず声をかけてみて

わたしは国際交流センターで、国際交流員という仕事をしています。アメリカ出身ですので、英語圏の外国人に対し、行政や法律に関わる通訳や翻訳、おもに欧米から来られた来賓へのガイド、マウント・プレザント市との高校生相互派遣での引率、在住外国人に向けたニュースレターの翻訳、保育園の子どもたちが遊びながら英語を学べる事業、イングリッシュお花見ピクニックなどを主催しています。

日本でたくさんさんの異文化を体験しましたが、例えばわたしが、「こんにちは」といいながらレストランに入ると、お店の人はパニックになつてしまいます。日本人から見たら、わたしはひと目で外国人と

わかる顔をしているから、日本語が通じないと思って、困ってしまうでしょう。もちろん、わたしに對しては、すべて日本語でOKですが、そんな外国人とのコンタクトには、まず日本語でいいから声をかけてみてください。すると、相手がどのくらい日本語を話せるかがわかりますので、それに合わせて、簡単な日本語や、身振り手振りで話してください。全部ではないかもしれませんが、必ず伝わります。岡谷の人はとてもフレンドリーだから、問題ないです！



クリスマスイベントで



わたしたちでできること

お互いの文化が違うことを認識し、問題が起きた場合は、対等な人間として、どうしたらよいかを話し合ひましょう。「これは当たり前でしょ」と日本のルールやマナーを一方的に押しつけたり、声をかけることもせずに警察を呼んでいきましょ。う。



知っていますか？

岡谷市国際交流センターの活動

【日本人向け・・・おもに国際理解】

- ★マウント・プレザント市との交流
- ★イングリッシュデイキャンプ、外国人講師による料理教室、海外の文化や習慣を紹介する講座
- ★国際交流員を保育園に派遣、海外のクリスマスを紹介する子ども向けイベント
- ★日本語ボランティアの養成 など

参加してみよう！

【在住外国人向け・・・おもに生活支援】

- ★日本語教室、市内見学会、日本の食材を使った料理教室
- ★外国籍の子どもへの支援員を小中学校へ派遣
- ★生活相談窓口の設置、5か国語による生活情報の発信 など



日本の食材を使った料理教室



市内見学会



問合せ●(公財)おかや文化振興事業団 国際交流センター ☎24-3226